

昭和大学新聞

学校法人 昭和大学
発行人 小口勝司
電話 (3784) 8000 〒142-8555
東京都品川区旗の台1の5の8
1部 50円 毎月1回発行

6月号の内容

- 1面
 ・コロナ禍における学生の学びの確保に向けた取り組み
 ・サラゴサ大学と医学部間協定を締結
 ・パーキンソン病患者における時間感覚トレーニングが認知機能の向上に寄与することを発見
- 2面
 ・令和3年度歯学部白衣授与式
 ・第57回戴帽式
 ・縄田修一准教授がベストオナーナイザー賞を受賞
 ・令和2年度私立大学等経常費補助金交付状況
 ・医師主導治療に付随した探索的研究のためのクラウドファンディング実施
- 3面
 ・医薬品フォーミュラリの策定に医療ビッグデータの利活用を開始
 ・フラボノイドによる新たなイオンチャンネル阻害を発見
 ・令和2年度寄贈図書一覧
 ・薬学部卒業生の進路状況
- 4面
 ・昭和大学医師会が5名の職員を選出
 ・学生相談室のご案内
 ・昭和大学各附属病院へのご支援の御礼
 ・昭和大学サポート寄付金寄付者氏名
 ・クラウドファンディングでの寄付募集のお知らせ

【問合せ先】

【本紙について：総務課大学広報係】
 03-3784-8059
 press@ofc.showa-u.ac.jp

【各種募金・寄付について：企画課】
 03-3784-8387

【学事について：学務課、大学院課、入学支援課】
 03-3784-8022 (旗の台)
 0555-22-4403 (富士吉田)
 045-985-6503 (横浜)
 03-3784-8026 (入学支援課)

サラゴサ大学と

医学部間協定を締結

3月4日、昭和大学はサラゴサ大学(スペイン)と医学部間協定を締結した。本協定は、昭和大学にとって11番目の医学部間協定で、スペインの大学では初めてとなる。サラゴサ大学とは、真田建史准教授(医学部精神医学講座)が2014年から留学したことをきっかけに、これまで海外選択実習として学生を送り出し、大学院留学生受入れの実績を積み重ね、今回の協定締結に至った。

調印式は新型コロナウイルス感染症予防のためオンラインで開催された。橋本みゆき教授(国際交流センター)とGerardo Rodriguez教授(Pediatrics and Coordinator of International Exchange)より出席者紹介動画・パワーポイントでの大学紹介が行われ、小風暁医学部長、Javier Lanza医学部長の挨拶などが行われた。その後、両副学長、両医学部長が協定書に署名し、最後に宮崎隆国際交流



写真1. スタジオでのオンライン授業の収録風景

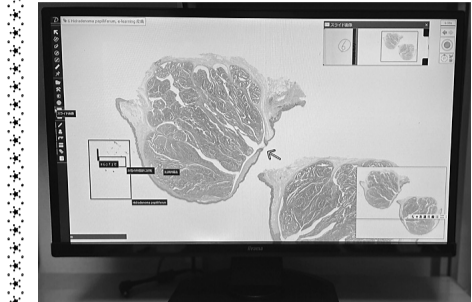


写真2. バーチャルスライドシステムを用いたパソコン画面の組織像



写真3. 人体解剖の超高画質3Dシステム(アナトマージテーブル)

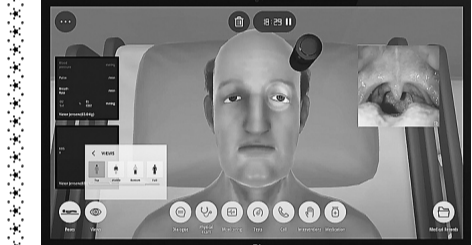


写真4. バーチャル患者システム(BodyInteract)



左から泉美貴教授(医学部医学教育学講座・医学部国際交流委員長)、宮崎隆国際交流センター長(副学長)、小風暁医学部長、橋本みゆき教授(国際交流センター)

「コロナ禍における学生の学びの確保に向けた取り組み」

医学部医学教育学講座 教授 泉美貴



コロナ禍は大学教育にデジタル・トランスフォーメーション(DX)という革命をもたらしました。授業は科目ごとに、Googleが提供するオンライン学習システム(Google Workspace for Education: GWE)にあり一機能の「Google Classroom」を通じ、教育職員が授業を撮影した動画や資料を掲載しておき、学生はオンデマンド(必要に応じて)で動画を視聴します。動画をライブ配信すれば、遠隔ながら教育職員と学生が双方で授業が出来ます。教育職員にとって動画の作成や配信は新しい試みですが、当初は苦戦しましたが、「文部科学省令和2年度補正予算大学等における遠隔授業の環境構築の加速による学修機会の確保に關する補助事業」に採択され、補助金1,800万円超を得て、(1)常設のスタジオを旗の台・横浜・富士吉田キャンパスにそれぞれ設置することができました(写真1)。さらに、(2)大学がGWEにある有料機能をすべて利用できる契約を結

びました。顕微鏡を使用する組織学や病理学など形態学系の演習は3密を招くため、令和2年度は実施できませんでしたが、そこで本学では、ガラス・スライドをデジタル化する「バーチャル顕微鏡システム」を導入しました(写真2)。学生はこれまで顕微鏡を利用できる時間が限られ、組織像はスケッチして覚えるしかありませんでした。今では、いつでも自分のパソコンやスマホ画面上で顕微鏡画像を自在に拡大・縮小して観察できるようになりました。また、臨床実習の代替として、バーチャル患者システム「Body Interact」(写真3)を導入し、学生は自宅にいながらパソコン等を用いて、バーチャル模擬患者の診療をシナリオ

さらに、感染症の診断や治療を模擬体験することができるようになりました。今後は、感染症収束の如何に関わらず、DXを駆使した教育を進化させ、オンライン授業と対面授業をそれぞれの質の向上を図りながら、次に最適な教育を模索して参ります。

※<https://www.youtube.com/watch?v=zyOUXc0Ll0s>

昭和大学の本間元康講師(医学部生理学講座生体調節機能学部門)、泉崎雅彦教授(同)、小野賢一郎教授(医学部内科学講座脳神経内科学部門)、河村満名教授(同)を中心とする研究グループは、村上秀友教授(東京慈恵会医科大学)、谷部好子リサーチスペシャリスト(NTTコミュニケーション科学基礎研究所)、寺尾安生教授(杏林大学)との共同研究で、パーキンソン病患者における時間感覚トレーニングが様々な認知機能の向上に寄与することを発見した。

時間感覚と他の認知機能が結びついているという基礎的な知見に加え、この手法が認知リハビリテーションに応用できる可能性を世界に提示した。

本研究結果は国際学術誌 Journal of Neuroscience Research に発表され、同誌の表紙を飾った。

センター長(副学長)の挨拶で締めくくられた。オンライン調印式は、新しいスタイルでの国際交流の取り組みとなった。昭和大学医学部とサラゴサ大学医学部は、新型コロナウイルスの感染状況が落ち着き次第、教育職員や学生の相互交流を行なうことを決めている。

パーキンソン病患者における時間感覚トレーニングが認知機能の向上に寄与することを発見

昭和大学 富士吉田の天然水

各種グッズも取り扱っております
 ・昭和大学オリジナルワイン
 ・ポロシャツ など販売中!

昭友商事株式会社
 03-3784-8280
<http://www.shoyu-trading.com/>

品川区 旗の台 電話(03) 3783-9774